様式第1号(第5条関係)

# 会　　議　　録

| | |
|---|---|
| 会議の名称 | 第２回 美幌町高齢者保健福祉・介護保険事業推進委員会 |
| 開催日時 | 平成２６年６月２７日　(金)<br>午後６時３０分　開会　午後７時３０分　閉会 |
| 開催場所 | しゃきっとプラザ　会議室２ |
| 出席者氏名 | 平間委員、中矢委員、森委員、太田委員、照井委員、早川委員、小西委員、田中委員、柴田委員、平田委員、油谷委員、岡本委員、佐藤委員、笹木委員 |
| 欠席者氏名 | 松本委員、池委員 |
| 事務局職員職氏名 | 藤原民生部長、谷川福祉主幹、佐藤健康推進主幹、関介護保険主査、安達高齢者福祉主査、大場健康推進主査、高橋主事、中村主事、赤川主事、池田主事 |
| 議題 | １　委員長あいさつ　　２　新委員紹介<br>３　議事(1)アンケート結果　(2)計画策定基本方針(案)　(3)今後の計画策定スケジュール　(4)次回開催日程<br>４　その他 |
| 会議の公開又は非公開の別 | 公開 |
| 非公開の理由<br>(会議を非公開とした場合) | |
| 傍聴人の数<br>(会議を公開した場合) | ０名（資料提供１名） |
| 会議資料の名称 | 第２回美幌町高齢者保健福祉・介護保険事業推進委員会議案・資料 |
| 会議録の作成方針 | □録音テープを使用した全部記録 |
| | ■録音テープを使用した要点記録 |
| | □要点記録 |
| その他の必要事項 | |

| 発　　言　　者 | 審議内容　（発言内容、審議経過、結論等） |
| --- | --- |
| １開会(谷川主幹) | ただ今より、第２回 美幌町高齢者保健福祉・介護保険事業推進委員会を開催します。本会議は公開となっておりますので、あらかじめご了承願います。 |
| ２委員長あいさつ<br>（平間委員長） | 委員の皆様にはいつもお世話になりありがとうございます。勤務終了後でお疲れとは思いますがよろしくお願いいたします。今日は第２回目の委員会となり、議事進行を勤めさせていただきます。まず、新委員の紹介を事務局よりお願いします。 |
| ３新委員紹介<br>（谷川主幹） | 美幌町自治会連合会福祉部会長の交代があり、新たに早川志津雄様が委員となられましたので紹介します。 |
| （早川委員） | よろしくお願いします。 |
| ４議事<br>（平間委員長） | さっそくですが議事に入ります。まず（１）のアンケート結果について事務局より説明願います。<br><br>〔別紙資料１～２により事務局説明〕 |
| (1)アンケート結果について<br>（中村主事） | 今回はアンケートを２つ実施しました。１つは前回の委員会で提示しました①高齢者保健福祉計画に関するアンケートで、65 歳以上 1,500 名を対象にしたものです。もう１つは②町内施設と事業所を対象にしたアンケートを行いました。<br>①高齢者保健福祉計画に関するアンケートの回収結果につきましては、資料２をご覧下さい。アンケート結果の内容については容量が多いため、資料１の概要版で説明します。<br>全部で７項目に分け、抜粋して説明。<br>１　家族構成～(1)ひとり暮らし高齢者(2)日中独居高齢者(3)住宅の状況<br>２　経済状況～年金のみの収入の方が多く、生活が苦しいと感じる方が多い。<br>３　心身の状況～(1)日常生活動作は８割が「できる」を回答していますが、「階段の上り下り」や「転倒」への不安を抱え、外出を控える一因となっています。(3)物忘れでは、大半が「できる」と回答しているものの、２割の方が「物忘れの指摘を受けたことがある」となっています。<br>４　生活の状況～(2)買い物は８割が「できる」のうち、「週２～３回は買い物で外出する」が４割いました。お金の管理は８割が「できる」となっています。(4)地域活動では 16.9%が趣味・習い事に参加、特にないが 14.3%、ボランティア等へ参加していないは 52.1%です。しかし、今後の地域活動への参加を希望している方は５割いました。<br>５　介護・福祉制度～(1)制度の認識度では、介護保険サービス以外の福祉サービスについて２～５割の方が「知らない」と回答。介護保健サービスは８割の方が理解されていましたが、平成 18 年から開始の「地域密着型サービス」の制度の認知が少ない傾向となっています。<br>６　これからの生活～(2)不安に思うことは「家計が苦しい」が最も高く、「施設の数が足りないのでは」という意見もあります。(3)行政への要望は、年金制度やサービス・施設の充実等となっています。また、介護保険料が高くなっても施設の充実させるべきという方が２割いました。<br>７　その他～自由記載欄及び介護事業所アンケートとあわせて、資料のとおりとなっています。事業所からも 24 時間対応の小規模多機能型施設や緊急時のショートステイの充実、ヘルパーの労働環境改善が出ています。 |

| | |
|---|---|
| （平間委員長） | アンケートの説明が終わりましたので、何か質問はありませんか。町民の行政に対する要望等が出ていると思います。質問が無いようですので、次の議事に進みます。 |
| (2)計画策定基本方針(案)<br>（関主査） | 〔別紙資料４により事務局説明〕<br><br>資料４の計画策定基本方針(案)を叩き台として事務局が作成し、委員の皆様の意見をお聞きして実際の基本方針を固めていきたいと考えております。<br>基本的に今回の計画は「第５期の取り組みを承継発展させる」とともに、高齢者が住み慣れた地域で安全・安心して暮らし続けることができる「地域包括ケアシステム」を実現することを基本に考えております。こういった基本に対し９つの大項目を挙げています。<br>１　介護保険・高齢者生活支援サービスの充実～既存のサービスの充実<br>２　生きがいづくりの支援<br>３　認知症高齢者等対策<br>４　高齢者虐待防止・権利擁護対策<br>５　地域包括支援センター機能充実と適正運営<br>６　介護予防日常生活支援総合事業の推進～介護保険制度改正による予防給付から町の生活支援サービスへの移行事業<br>７　健康づくり・疾病予防の推進<br>８　地域包括ケアシステムの充実<br>９　生活環境の整備　　（詳細は資料４参照） |
| （平間委員長） | 基本方針(案)について事務局より説明を受けましたが、何か質問はありませんか。 |
| （小西委員） | アンケート調査の結果や第５期計画の実績・反省を反映しないのか。ケアマネ不足や前回の計画から継続のケアハウス建設ができない理由などは。基本は、地域で住み続けたいと思うが、高齢等の理由で不安になるという、アンケートに反映された町民の気持ちを具体的に盛り込んでほしい。 |
| （事務局） | 方針（案）のため大項目のみの説明だが、アンケート結果も、もちろん反映させて作成します。第５期計画の実績を見て第６期のサービス量等を見込んでいきます。ケアマネ不足等は小項目の中で詳細を入れていきます。ケアハウス建設については、交渉を進めていた法人が引受け困難となり、美幌町は民間主導のスタンスを取っているため、現在引き受け手を募集している状態であります。また、施設を建設すると保険料に反映され引き上げとなり、北網圏域で整備枠を調整されている状況です。 |
| （平間委員長） | 今回のアンケート結果を反映させて作っていくということでよろしいですか。美幌町はハード面（施設）は思ったより充実していると思います。最近ではソフト面（人員・介護士・看護師・ヘルパー）が不足となっている。町で人材育成を実施しておらず、今回の計画に盛り込んではどうでしょうか。 |
| （事務局） | 昨年、北見高等技術専門学院で介護士の養成セミナーを美幌町で計画していましたが、募集人員が集まらず実施できなかった経過があります。国も介護職員に対しての処遇改善を図っています。 |
| （平間委員長） | 国等で金を出しても人員がいない。特養、老健、グループホーム等もぎりぎりの人数でまわしている。ハードがあっても施設内で働く職員が集まらない状況だと思います。 |

| | |
|---|---|
| （森委員） | 策定されている計画は立派だが、今回のアンケートでも既存のサービスを知らない人がかなりいる。計画ばかりではなく、広報や周知体制を充実して欲しい。この委員会に総務の広報担当を参加させてはどうか。 |
| （事務局） | サービスの認知度の低さはご指摘のとおりだと思います。福祉のしおり等も作成していますが、サービスが多岐にわたっており分かりづらいためかと思いますが、善処いたします。 |
| （太田委員） | 社協だよりや包括だよりが広報と一緒に配布されていますが、読み手の立場にたってほしい。情報量が多く、字が小さいので、せっかくの情報が伝わらない。また、アンケート結果では７５歳以上の方の回答数が少ないが、せっかく送付しても回収できないなら、民生委員にフォローを頼めないのか。民生委員側でも訪問のきっかけとなる。今後、民生委員との連携の考えはないか。 |
| （事務局） | アンケートにつきましては、匿名性があるため、民生委員への協力依頼は難しいと思います。書き方が分からない場合は、地域の支え合いとして協力をお願いできればと思います。 |
| （平間委員長） | アンケート１２２問の量は多いのではないか。回答することで粗品プレゼント等の特典を付けてはどうか。 |
| （早川委員） | アンケートが来て、回答しましたが見やすく工夫されており、担当者の苦労がしのばれました。 |
| （柴田委員） | 私も回答しましたが、アンケート回答に１時間くらいかかりました。 |
| （事務局） | アンケート結果に基づき地域特性等が確認でき、分析して活用できます。 |
| （中矢委員） | 金・物・人の話が出たが、人口２万人、生産人口も少なくなり、介護職場は非生産的となると、サービスの限界が来ると思う。現実的にサービスの低下も否めないのではないか。いつ頃限界が来ると想定しているのか。また、国は居宅サービスを重視していると思うが。 |
| （事務局） | ピークは一応、団塊の世代が７５歳となる２０２５年と言われている。居宅で暮らし続けるためにも地域包括ケアシステムの構築とあわせて６５歳以上でもお元気な方の支援をいただくしかないと思う。 |
| （平間委員長） | １０年先のことも今回の計画に盛り込まないといけないですね。 |
| （事務局） | ２０２５年を見据えた計画となります。 |
| （平間委員長） | 他に意見はありませんか。無いようですので、議事を進めます。 |
| | 〔別紙資料５により事務局説明〕 |
| (3)今後の計画策定スケジュール<br>（関主査） | ９月に第３回委員会を開催、１１月に第４回委員会において介護保健サービスの事業量を提示し、その数値に基づき計画（素案）の検討を考えております。 |
| | （質疑無し） |

| | |
|---|---|
| (4)次回の開催日程<br>(関主査) | ９月中の開催を予定しております。詳細は後日連絡いたします。 |
| ５その他<br>（谷川主幹） | 平成２６年度福祉データについて、資料のとおり配布します。参考としてご覧下さい。 |
| （平間委員長） | 最後に何か質問はありませんか。将来人口が少なくなっても大丈夫なような良い計画を策定していきたいと思いますので、よろしくお願いします。<br>本日の会議を終了いたします。<br><br>〔午後７時３０分終了〕 |
| | |